

総務省 政務三役会議 議事概要

日時:平成22年9月9日(木)15:00~15:15

場所:総務大臣室

議題:○報告事項その他

- ・自治体クラウド推進本部有識者懇談会(第1回会合)の結果について
- ・「食」に関する将来ビジョン検討本部(第4回)の結果について

○渡辺副大臣

お疲れ様でございます。今日は救急の日でございます。一昨日に続きまして政務三役会議を始めます。大臣、よろしく願いいたします。

○原口大臣

わたしの方からは2点です。1点目はですね、まさに今、副大臣がお話しをしましたように救急の日です。先程、救急功労者の表彰もさせていただきましたけども、わたしの方からの要請はその中での2点。1点目はこの間、埼玉県の防災ヘリの殉職者の合同慰霊祭に行っていました。10月ぐらいをめぐりに埼玉県は運行ができるようにということで頑張っていたようですが、救急防災の分野で更なる予算の獲得と支援を政務三役あげて頑張っています。一昨日、中井大臣と9月1日の防災の日、これ、副大臣ありがとうございました。御地元に行かせていただいて。その中で4つくらい私たちの方から問題提起をいたしました。

1点目は3連動という未曾有の災害を予定していたものですが、全国的にそれがどうであったのか、それから、私達の緊急消防援助隊、静岡県でも、よく政令市とか大きな県までは、消防援助隊の招聘というのがよく考えられています。この間、静岡でも、じゃあ実際に入るとなるとどうやって入のかと。今、自衛隊、警察とですね、さらに詰めています。自衛隊機をお願いして、陸路が破壊されている場合でも速やかに被災地に入れるという体制の確認を行っています。これ、もう一回再チェックをしてみてください。それから、古いマニュアルでは発災して2時間後に対策本部が、というようなものでしたけれども、この間は問題提起をして、1時間20分後にもう招集がかかっています。それでも、情報化社会の中では遅いのではないかと。もちろん私達は即、このオペレーションルームに入って情報を発信しますが、対策本部の立ち上げについて、もっと早い対応をできないかということで、中井大臣とも検討の話を見せて頂いて、意見の一致をみたところでございます。

それから4点目は、その結果としてやはり多くの人たちをどこから、例えば消防でも、それから警察でも、ここが被災したときに誰がどのように駆けつけるかといったことのマニュアルが必ずしも明確でないとなると、これ陸路も何もトランスポーターの手段から困りますので、この4つを明確に出来るように政務三役にご指示を申し上げます。それから2点目は新成長戦略の関係でございますが、今日会議が行われて、水やあるいはISDB-T日本方式など、私達総務省としても力を上げてやっている光の道、そういったものにも文言も入ってきました。で、パッケージとして世界に対して売り込んでいくと、そのためにどうすればいいか、もう渡辺副大臣はじめ内藤副大臣一生懸命頑張って世界に私達は先駆けてやっているわけですが、さらにそれを資本やあるいは経済全体からどうやって支えていくか、特に今地域で大きな芽が出来てきています。地域の活性化の芽を引き出す、そういう方策についてもさらにバージョンアップをしてください。私達が、例えばですね、為替の状況だけ見ても、非常にやっぱり危機的な状況ではないかという声が増えています。じゃ、このゴールキーパーは誰なのかと。ゴールキーパーがゴールの目の前でただぼーっとしていれば、渡辺副大臣とかサッカーのメッカですけど。静岡あ

んなに強くならなかった。つまりゴールキーパーが本当にゴールキーパーの役割をしているのかどうかといったことについての地域から私たち多くの意見をいただいています。そういった所でも、今代表選やっている最中ですけども、この地域主権改革をやる上でも、為替が安定し、そして急激な円高で地域が疲弊するなんてことがないように、是非議論のまとめをお願いします。新たな成長分野に投資をどう呼び込んでいくかといったことについて、税制でもそうですけども、少し前倒しをして年末の税調ということではなくて、その前でご議論できるようにということで総理からもご指示がありましたので、併せてお伝え申し上げます。私の方からは以上です。

○渡辺副大臣

はい。それでは協議事項は、今日は記載されておりませんが何かございますか。はい、無ければ報告事項です。

○原口大臣

あとで、協議事項というか、いわゆる事故、危機管理案件ということで、これはちょっとオープンではできませんが、後で、私のほうから申し上げます。

○渡辺副大臣

それでは、内藤副大臣。

○内藤副大臣

はい。それでは私のほうから1件手短かに報告させていただきます。昨日、私と小川政務官出席のもと、自治体クラウドを推進するための懇談会を立ち上げておりますが、その第1回目を開催いたしました。座長は東京大学の電子化の専門家であり、須藤修先生でございます。そうした先生の下、本当にご覧の通りの様々な建設的な意見が出ました。特にご覧いただきたいのは、こことこの2点でございますが、そのメンバーの中には研究者のみならず、各自治体の方々もお越しいただいているわけなんです。そういった方々からデータセンターを今まで自分の局舎に置いていたけれども、外に置くことになったとき、そのことに対する心配やあるいは不安は無いのかという質問があったわけなんです。データセンターが域外にあっても運用上の支障は無いと考えられる。

もっと前向きな意見は、データセンターを庁舎内に置くよりも、むしろ外に置いたほうが安全ではないのかというような、まさに自治体の方々自らこういうような意見が出たということで、これは大変大きな意義を持つのではないかなという風に思っております。そして、こういう様々な意見を踏まえて、今月中に、一番最後の今後の予定というところに入らせていただきますが、そういった意見も踏まえ、今月中に論点を明確にした上で、時間もあまりありません、11月までに結論を得るべく、精力的な議論を行っていきたいと思っております。以上でございます。

○原口大臣

これ、クラウド化も強力に、しかも工程を示して進めてください。それで今日、郷原顧問から私のほうに電話がありまして、階政務官にはお伝えをしているということですが、またぞろ古いレガシーシステムを強引に入れて自治体から悲鳴が上がっていると。入れようとしている省庁があって、今あるもうほとんど使われていないシステム、何かウィンドウズ2000とかいう言葉をおっしゃっていましたが、それを無理無理、今からまたカミングアウトして使おうとしている役所があるやに聞いております。階政務官は何か報告ありますか。

○階大臣政務官

言っているんですか。具体的に。

○原口大臣

具体名を言うには、どうなのか。同じ役所なので。

○階大臣政務官

そうですね。多分、郷原顧問が言われてるんだと思うのですが。

○原口大臣

今頃、ウィンドウズ2000を使ってもですね、ほとんど、どういうことになるのか。

○内藤副大臣

マイクロソフトのバックアップ体制が切れているのではないですか。XPですら、あと2, 3年ですよ。

○原口大臣

私達からすると、信じがたいもので。まだ、事実には接していませんが、事実はどうなのか。

○階大臣政務官

ちゃんと精査した上で、然るべき・・・

○原口大臣

中央省庁がそう言ってやると、泣かされるのは自治体ですし、余計なまたそこに大きな出費を。バックアップ体制もないんだったら。

○内藤副大臣

バージョンアップしなくなりますよ。

○原口大臣

しなくなりますね。また、データだけどこかに移して。

○階大臣政務官

また、新しいシステムを作り直して。

○原口大臣

また、そこにお金がかかる。ちょっとこれは、全てオープンに言えることではない。事実を確認して。次回のところで・・・

○階大臣政務官

わかりました。

○渡辺副大臣

では、続いて小川政務官。

○小川大臣政務官

政府間会議のご報告です。食に関する将来ビジョン検討本部で、主に農林水産省が中心になっております。昨日は第4回の会合でございまして、関係する内閣府や経済産業省や国交省などと一緒に参加させていただきました。要は40パーセントの食糧自給率を50パーセントまで持って行きたいと、そのために観光振興や地域振興と併せて取り組むというコンセプトでございまして、特に総務省としては、緑の分権改革やあるいは子どもたちの農村交流体験等を通して、こちらのビジョンに貢献しております。途中経過ですが以上です。

○渡辺副大臣

はい、何かございますでしょうか。はい、無ければ非常に短時間でございますが、三役会を閉じさせていただきます。

終了